



学校教育目標 「元気な子」「考える子」「仲良くする子」

# 上高田小だより

令和元年度 12月号  
発行 令和元年12月2日  
中野区立上高田小学校  
校長 小池隆一  
児童数 186名  
卒業生総数 14459名

学校は、地域とともに、子どものためにある。

副校長 塩田 英俊



保護者の皆様、いつも本校の教育にご理解、ご協力いただき、本当にありがとうございます。「学校は、地域とともに、子どものためにある」この言葉を体現していただいている保護者・地域の皆様の素晴らしさをしみじみと実感しています。

11月20日には、新井小学校の児童が登校して来ました。保護者・地域の皆様に見守られながら大きな怪我をすることもなく登校できたこと、重ねて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。当日は、北京・リオオリンピックの新体操日本代表・田中琴乃先生をお招きしてオリンピック・パラリンピック教育特別授業を行いました。講演会でのお話やリボンの演技に驚きと感動を覚えました。田中先生がオリンピックを目指した理由としてあげていた一つに、大好きな校長先生に『オリンピック選手になれるよ。』と言われた一言だったそうです。校長先生が、その子らしさを認め、可能性を信じて励まし後押しする。そのように励まされた子どもたちは夢や希望に向かって大きく翼を広げ羽ばたいていったことなのでしょう。その子らしさを見つけて最大限に励ますことの大切さを実感しました。

話は変わりますが、先日、特別支援教育講演会ということで、私も障害のある子たちと過ごした経験を少しお話させて頂きました。

1年目、自閉症のK君の担当になりました。オウム返し、聴覚過敏等の症状がありました。保護者の方は、お子さんの存在を受け入れられず悩んでいるようでした。K君は、褒められることが少なく、お母さんは、いつも眉間に皺を寄せていました。

一生懸命に関わり3ヶ月が経過した頃、今までで見られなかったような成長の兆しが見られました。その姿を見たお母さん、K君に対して「よくできたね。すごいね。そうだったんだね。」と大喜びで褒めてくれました。その時のK君の喜ぶ表情と言ったら見たことがなかったです。大きく成長したのは、お母さんに褒められたその時からでした。オウム返しだった言葉のやり取りが改善の方向へ、パニックになることもほとんどなくなり、歩けなかったその子が2年間で手すりを持って歩けるように、楽しく過ごす時間に笑顔が増えました。保護者の方の存在の凄さと子どもが親を思う強さ、強い絆を感じた出来事でした。

「保護者が1cm変わると子どもは1m変わる」という言葉があります。子どもたちにとって教育環境である私たち大人が少し変われば、子どもたちは大きく変化するということだと思います。子どもたちにとってより善い教育環境となれるよう日々努力し、「学校は、地域とともに、子どものためにある。」との言葉をさらに実践していきたいと思えます。子どもの可能性を信じ、支えることでこの地域の子どもたちの可能性は大きく開花し、伸びていくのだと感じています。

